

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

4月15日発行

第1号

文責 中野善文

校長通信：新たな視点で新たな話題を提供します
～白樺のように凜と美しく、闘牛のように勇ましく～

4月から校長として着任した中野善文と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度まで、前任の佐々木校長先生が「あの日を忘れない」の発行により、岩手の復興教育3つの視点（いきる・かかわる・そなえる）で発災時の様子や防災に関わる貴重な話題を発信されていました。岩手に生まれ久慈に暮らす私たちは、東日本大震災の記憶やこの辛く悲しい出来事から学んだ教訓を、次の世代に語り継ぐ使命があります。この東日本大震災の記憶を風化させることなく、今後も復興教育を大切にしていきたいと思えます。

今年、震災から10年が経過し一つの節目を迎えましたので、折に触れて被災地の様子や防災についての話を取り上げることとし、今後は「予測困難な時代をたくましく生き抜く生徒の育成～白樺のように凜と美しく、闘牛のように勇ましく～」のために、学校教育が目指す「知・徳・体」それぞれの分野の話題について発信していきたいと思えます。

<自己紹介 わたしと山形町との関わり>

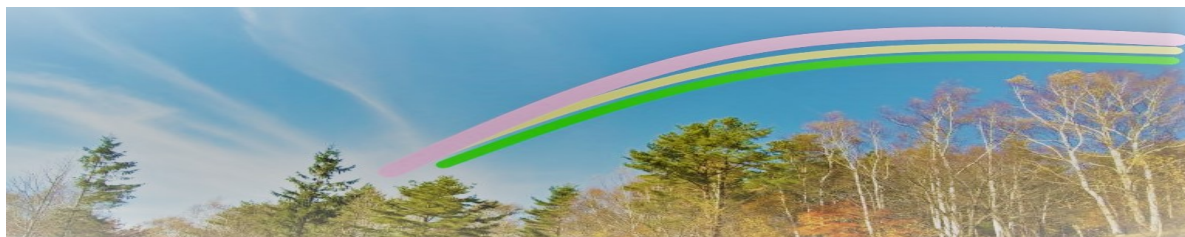
前任校は遠野市立遠野西中学校で、校長2校目です。平成20・21・23年に久慈市教育委員会に勤務し、山形地区集合学習（当時小学校7校）を担当しました。当時あった7校の児童が集まって体育や音楽の学習をするのをサポートしたり、保育園と児童館も訪問していましたので、まだ小さかった頃の生徒の皆さんにすでに出会っていたかもしれません。



<校長通信タイトル「白樺と虹と太陽と」について>

大学進学や各種受験等の人生の節目節目に、久慈溪流そして平庭高原を通過して盛岡や東京に出かけました。その都度、心に残っている景色がいくつもあります。最も印象に残っているのが、亡き父を盛岡の病院に転院させた帰り道の景色です。沈んだ気持ちで久慈に向かって車を運転していましたが、平庭高原に差し掛かる手前でわか雨が降りだし、高原にはとても大きな虹がかかっていました。突然差し込んだ希望の光に力が湧き、とても元気づけられました。予測困難といわれるこの先、いろいろな困難が待ち受けているかもしれません。それでも、「みんなで困難に立ち向かっていこう」、そして、「その先には必ず明るい未来が待っている」。そういう願いを込めてこのタイトルをつけました。

時間の経過とともに、現在、白樺も老朽化してきていると聞きました。いつまでも、この美しい風景を残し、学校および地域が益々元気になるように微力ながら頑張っています。



白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

5月6日発行

第2号

文責 中野善文

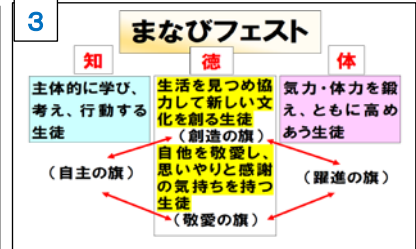
2021 山形中学校 4つの旗を高く掲げて！

先日は、ご多忙中の折、授業参観及びPTA総会にご出席いただきありがとうございます。総会において、今年度の学校経営についてお話をさせていただきましたが、限られた時間の中で駆け足でしたので、改めての確認と補足をさせていただきます。

1 **経営スローガン**
子どもたちには笑顔を
保護者には安心を
地域とはつながりを

2

敬愛の旗	躍進の旗	創造の旗	自主の旗
------	------	------	------



1 今年度の学校経営について、職員に経営のスローガンを示しました。このスローガンのもと、職員力を合わせて頑張ります。2 生徒には、校歌にある4つの旗を高く掲げて生活しようと話しました。この4つの旗は、本校の教育目標で、実現するために3の「まなびフェスト」を策定し、具体的な取組みと目標数値を示しました。達成できたかどうかを判断するために、生徒・教職員・家庭のそれぞれに評価アンケートを実施します。

4

知	徳	体
学習に集中して 取り組む生徒 80%以上 家庭学習に積 極的に取り組む 1年生70分 2年生80分 3年生90分 80%以上	学校が楽しいと 思う生徒 80%以上 明るいあいさつ ができる生徒 80%以上	規則正しい生活 をする生徒 80%以上 部活動に積極 的に取り組む生 徒 90%以上

4 昨年度の評価は、「知」の2項目と「体」の2項目については、それぞれの目標数値を達成していましたが、「徳」の「学校が楽しい」(生徒評価69%)、「明るいあいさつができる」(保護者・生徒とも77%)は、いずれも目標に届きませんでした。

今年度は、この「徳」について重点を置きながら、生徒が明るく楽しい学校生活を送られるように努めて参ります。

5 **山形中学校いじめ防止基本方針**
アンテナを高く
早期発見・早期解決
いじめ解消100%を目指します
SNS等の利用⇔家庭の話し合い

生徒が明るく楽しい学校生活を送るために、5 いじめの取組みについてご理解とご協力をお願いいたします。本校生徒はNAR運動を行っており、いじめに対する意識は非常に高いと考えます。しかし、社会の現状を見ると、なかなかなくなるのが現実です。県教委からも、いじめ「0」よりも、アンテナを高く早期発見・早期解決に努めるように指導されています。本当にいじめ件数が0であればよいのですが、学校が気づかないままに深刻化してしまったら大変なことです。いじめは、社会全体で取り組まなければならない問題です。いじめに関する情報があつたら迷わずに学校に連絡をください。ご迷惑はおかけしません。本校は「いじめ解消100%」を目指します。

但し、解決が困難なのがSNS等による誹謗中傷です。遊び半分でやっていたことが相手を深く傷つけたり、相手の個人情報や漏洩する問題等が中学生の間で多く発生しています。事実の確認のためには、被害者が警察に依頼しなければ確認できないこともあります。

新型コロナウイルスの影響もあって、これからICTの活用は益々活発になっていきます。使い方については学校でも指導しますが、残念ながら問題は家庭での利用中に発生しています。家庭のルールを相談したり、いじめのニュースについて親子で話し合ったりと、利用マナーについて家庭で対話することが一番重要です。お子様を加害者・被害者のどちらにもしないためにも、日頃から親子の対話を大切にしてください。(裏面に続く)

**義務付けたり、強制することのない
ように留意すること** スポーツ庁・文化庁・岩手県

**自主的・自発的→学習意欲の向上
責任感・連帯感
異年齢交流→好ましい人間関係
自己肯定感の高揚**

6 ここに示した「義務付けたり、強制することのないように留意すること」とは、平成30年3月にスポーツ庁が策定した「運動部活動の在り方に関する総合ガイドライン」に続いて、文化庁が策定した「文化部活動の在り方に関する総合ガイドライン」(平成30年12月)に記してあります。

岩手県では、この文化庁のガイドラインを受けて、令和元年8月に「岩手県における部活動の在り方に関する方針」を、同様に改訂しました。そして、間もなく、久慈市教育委員会においても同様に改訂が行われるものと思われます。

この改訂は、学習指導要領総則の「部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われる」という趣旨によるもので、生徒の多様なニーズに応え、地域のスポーツクラブや競技団体、複数校の生徒が拠点校の運動部に参加することを想定しています。そして、国では令和5年度に部活動を地域に移行することを計画しています。

しかしながら、県内の現状を見ますと、スポーツクラブやカルチャー教室等の受け皿は少なく、学校の部活動に所属しなければ、自主的・自発的に取り組めることはごく限られたものになりそうです。もしも、自主的・自発的な活動等を見つけられなかった場合、おそらく、帰宅後のスマホやゲームの利用の時間が長くなるのではないかと懸念されます。

そこで、学校としては部活動の価値を重んじ、引き続き全員参加型の部活動を推進できればと考えております。学習指導要領に示された部活動の価値は、大きく二つあります。

一つは、自主的・自発的な部活動の取り組みにより、学習意欲の向上等の相乗効果があり、責任感や連帯感を育むことができます。

二つ目は、異年齢による集団活動をする中で、先輩と後輩の関係および指導者とのより良い人間関係作りを通して、人間関係調整力を養い、自己肯定感や自己有用感を育むことができます。

これらの教育的価値は、これから社会に出て自立していく中学生にとっては、非常に価値の高いものと捉えます。また、学校全体が中総体や新人大会に向かって心をひとつに取り組むことは、生徒会活動においても課題解決能力や団結力・連帯感等の醸成に非常に効果があります。

最後になりますが、学校は現在、「開かれた学校」「多様な学び」が求められていて、学校の先生だけではなく、専門的な知識や技能をもった地域の方々の指導や、多くのボランティア(図書館整備、環境整備、学習補助、部活動指導等)の関わりが必要です。今年度も、学校と地域をつなぐコーディネーターを岩脇愛さんが担当し、まずは図書館の整備から着手しようと考えています。ぜひ、子どもたちの多様な学びのために、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

6月1日発行

第3号

文責 中野善文

挑め中総体！～気持ちで負けない～ 燃やせ山中魂！

体育祭を成功裏に終え、生徒からの要望に応じて、部活動延長を5月19日からスタートしました。要望には、各部の部長が校長室に訪れ、それぞれの部で守るべき約束事項と延長をしていただくことへの感謝の気持ちが述べられました。先生方には、勤務時間を終えてからの活動となりご負担をおかけすることになるわけですが、職員全員一致で、生徒のために部活動延長を実施することを決めました。

地区中総体まで、今日を入れてあと11日。3年生にとっては最後の大会になります。ぜひ、やり切ったと思える大会にしてほしいと思います。(以下、全校朝会・校長講話より)

毎年この時期になると思い出される試合があります。20年以上前のことになりますが、当時わたしは、二戸地区の学校に勤務していました。生徒数は50人弱で、今の山形中学校と同じ規模です。野球部・ソフトボール部・卓球部がある中で、野球部の監督を務めていました。

そのときは、3年生の担任もしていたので、最後の地区中総体に向けて「心ひとつに頑張ろう」とクラスの生徒、そして野球部の生徒に話をしていました。

抽選会の日が訪れ、対戦校が告げられました。相手は、福岡中学校です。福岡中学校は全国優勝を果たしたこともある強豪校で、5月に行われた全日本軟式野球大会地区予選で対戦した際には、5回コールドによる大敗を喫していました。ほとんどの生徒が、対戦校を聞くやいなや、「終わった…」と嘆いていました。

その様子を見て、選手を励まそうとしたそのときです。いつもは、わたしによく練習態度を注意されているK君が大声で叫びました。「お前ら何言ってんだ。やってみなきゃわかんねえだろ」そして、全員をバックネット前に並ばせ、「先生ノックをお願いします。きついやつ。」と言いました。みんな、最初は啞然としたものの、「K君がそう言うんだったらやろう。」と表情を一変させ頑張り始めました。本番までの1週間は、まさに打倒福岡中に燃えた練習でした。

試合は、大方の予想に反しエースの好投によりシーソーゲームが続き、6回表にチャンスが回ってきました。ワンアウト1・3塁。試合の流れをこちらが引き寄せ、相手が慌てふためいているのがわかりました。勝機を掴んだと思った試合でしたが、残念ながらスクイズを失敗し無得点。その後、相手の大応援団が息を吹き返し、すさまじい応援のプレッシャーに押されその回裏の守りで惜しくも失点。そのまま0-1で負けてしまいました。

K君のひと言が、みんなの心に火をつけ、打倒福岡中に燃えた1週間の練習がチームをさらに成長させました。

中学生の試合は、気持ちの部分が大きく影響します。たとえ、実力が上の相手であっても、チーム全員が心ひとつに粘り強く立ち向かえば、何が起こるかわかりません。逆に言うと、実力で勝っていても油断をすると足元をすくわれます。今週、抽選会があります。相手がどこであっても、これまで一緒に汗を流してきた仲間と心ひとつに、大会に臨んでほしいと思います。

ちょっとやんちゃなK君でしたが、高校卒業後は立派な社会人となり、成人の日にはクラス会に呼んでくれたり、町で偶然会ったときには、とても丁寧なあいさつをしてくれます。

とても嬉しい限りです。

地域・保護者の方々に支えられた体育祭

体育祭の開会行事の際にもお伝えしましたが、体育祭の開催にあたり蒲野建設さんが地域貢献事業として校庭整備をしてくださいました。あまりにも本格的な作業に、わたしは恐縮する思いでお手伝いをさせていただきました。作業の工程をお知らせします。

まず、モーターグレーダーで表面の土を削ります。

次に、グランドレーキ（通称トンボ）で凹凸をならし、石を拾います。

そして、ロードローラーで土を押し固めます。

この作業を、土曜日から日曜日にかけて行っていただきました。

また、山形ジュニアベースボールクラブの保護者・関係者の方々には、校庭の草刈りと石拾いをしていただきました。

まさに、地域・保護者の皆様に支えられた体育祭でした。

今後とも地域・保護者の皆様には、子どもたちの教育活動を支えていただきますようお願いするとともに、学校も地域に元気を与え、地域の発展に寄与するように頑張ってまいります。

一日も早いコロナの収束を願うとともに、収束後は、子どもたちの元気な姿を地域の皆様に届けたいと考えております。



コロナ禍に立ち向かう Y 君の姿を見て

5月27日の夕方のニュース番組に教え子の Y 君が登場しました。Y 君は、盛岡で飲食店を営んでいますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、1日の来客数は落ち込み、1日1組の日もあるとインタビューに答えていました。そういう厳しい状況下において、Y 君は同業者に働きかけて「岩手の飲食業会を守る会」を結成し、県知事および盛岡市長などに要望書を出したと伝えられました。要望書の内容は、パーティション等のコロナ対策をしっかりと講じている店を優良店として県が認定し、認定された飲食店には支援金を支払ってほしいというものでした。Y 君は、インタビューの中で、「絶対大丈夫とは言い切れない難しさがあるが、安全のためにできることをしっかりと行いたい。それを県や市が支援することで、より一層安全な食が保たれる。」と述べていました。

中学生のころから、逆境に立ち向かう強い勇気と優れた行動力をもっていた Y 君でしたが、このコロナ禍において、様々な知恵とアイデアを出し活路を見出そうとする姿に、学校教育が目指す「たくましく生きる力」を感じました。

先週、盛岡市では市中感染の恐れがあると警鐘を鳴らしました。コロナ対策をしっかりと講じながら、この難局を乗り越えなければなりません。それぞれができることをしっかりとやる。引き続き、ご家庭でのご協力をお願いいたします。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

6月21日発行

第4号

文責 中野善文

「学問のすすめ」～今求められる学力とは～

「学問のすすめ」は、皆さんご存じの通り1万円札の肖像画で有名な福沢諭吉が、140年以上前の明治時代に著した書物です。当時としては異例の340万部が売れ、日本国民の10人に1人が読んだと言われています。



福沢諭吉が、この「学問のすすめ」を著した背景には、当時の「日本が西洋の列強に植民地化されないように、1人1人の心のもちようを変えなければならない」という思想が影響していたようです。政府にだけ頼るのではなく、1人1人が精神的に独立しなければ国は強くない。そのため、勉学に励むことが大事であると唱えました。

福沢諭吉の唱えた勉学は、現在に通じるところが多くあります。

① 実学を学ぶ重要性

知識だけを身につけるのではなく、知識を実生活にまで落とし込んで、行動に移すことが重要である。

そのためには、自分の頭で仮説を立てて比較検証をし、実践するという行為が重要である。

② 独立自尊の精神

人に頼ってばかりではいけない。精神的に独立し、自分の頭で考えられる判断力をもつことが重要である。但し、独立とは他者との良好な関係を前提とし、人間交際は活発にすること。そのためには、弁舌（上手な話し方）を学ぶこと、顔色容貌（顔の表情）を快活にすること、交際を広く求める（多くの人とコミュニケーションをとる）ことが重要である。

現在の国や県が実施する学力調査では、知識のみを問うのではなく、知識を実生活に結び付け、どうしたら解決できるのか、解決までの道筋とそれをどう表現するか（思考力・判断力・表現力）を問う問題になっています。

右は、4月に1年生で実施した「令和3年度・岩手県中学校新入生学習状況調査」の数学の問題で、実生活に関わるものです。

はじめに、一般的な平均値の求め方を紹介し、次に他の生徒の解き方と比較することで別の解き方を見出す。それを自分の言葉で表現するように指示してあります。

これは、普段の数学の授業で実際に学習していることですが、「学問のすすめ」の実学の考えと共通しています。

裏面には、今求められる学力とその育成について記します。

⑥ とおるさんたちは、5人でバスケットボールチームを作りました。とおるさんのチームの平均身長を調べるため、5人の身長を下の表のようにまとめました。

【表 5人の身長】

メンバー	身長
1	1m50cm
2	1m64cm
3	1m57cm
4	1m63cm
5	1m56cm

とおるさんは、この記録をもとに次のような方法で平均を求めました。

【とおるさんの求め方】

$$(150 + 164 + 157 + 163 + 156) \div 5 = 158$$

答え 158cm

はるかさんは平均を求める計算を簡単にするために、1mをこえた部分に着目し、1mを基準として次のように平均を求めました。

【はるかさんの平均の求め方】

1mをこえた部分の平均の求め方
 $(50 + 64 + 57 + 63 + 56) \div 5 = 58$
基準とした1mに、求めた平均の58cmをたします。
5人の身長の平均は、 $100 + 58 = 158$

答え 158cm

【はるかさんの平均の求め方】を聞いためぐみさんは次のように考えました。



1mのかわりに、1m50cmをこえた部分に着目して、平均を求めることができます。

1m50cmをこえた部分に着目した平均の求め方【はるかさんの平均の求め方】を参考にして、言葉式を使って書きなさい。

まず、「**確かな学力**」について文部科学省では、次のように示しています。

知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等まで含めたもの



過去の日本の学力は、どちらかという知識に重点が置かれていました。しかし、予測困難なこれからの時代を生きていくには、受動的な学びではいけません。自ら課題を見出し、その解決に向けてこれまで学んだ知識をフルに活用して、よりよく解決する力を身につけることが重要になります。では、どうしたら良いのでしょうか？

📌 日々の授業が「**確かな学力**」の第一歩です

確かな学力を育てるために、授業では、子どもたちの①課題意識を大事にし、②課題をどうしたら解決できそうか、これまでの学習をもとに見通しをもたせ、③主体的に考えられるように進めています。そして、④自分の考えを他の生徒と比べ、⑤最終的に自分でよりよいものを判断し、⑥まとめを自分の言葉や文章でわかりやすく表現することができるように指導しています。

ですから、日々の授業において、まずは課題解決に向けて自力解決を目指し、他の生徒との考えの交流を大事にし、最後は自分で判断し、課題のまとめをすることが重要になります。

📌 家庭学習で定着・発展させましょう

何事もやりっぱなしでは力が伸びません。家庭学習で、授業で学んだことを復習して定着させる、または、学んだことをもとに新たな問題にチャレンジしてさらに力を伸ばすことが大切です。

家庭学習においても、受け身ではなく、自分に何の勉強が必要なのかを考えながら主体的に学習する習慣を身につけることが大事です。

📌 テストで学習の成果を発揮しましょう

部活動に例えると、テストは大会の日です。目標を決めて、その達成のためにどんな勉強をしたらよいか計画を立てます。そして、計画を実行する中で、自分の得意な部分と苦手な部分が明らかになり、ときには計画を修正しながら本番に向けて勉強をします。

この過程が、学びに向かう力を育て、皆さんを成長させます。期末テストまで、今日を含めてあと4日と迫りましたが、必要があれば計画を修正し目標に向けて頑張りましょう。

📌 評価は、日々の授業の積み重ねです

評価は、テストの成績だけで決まるものではありません。日々の授業課題に、どのように取り組んでいるのが重要です。課題解決に向けて、粘り強く取り組む姿勢やどのように思考し表現することができたかを評価します。これまでの、ノートやタブレットにまとめた内容も大事な評価材料となっています。

📌 おわりに

将来、どのような仕事に就いて、どのような生き方を目指すにしても、中学校の授業（すべての教科）で学んだことは、いつか必ず役に立ちます。それは、直接役に立つことだけでなく、物の見方や考え方において発揮されることが多いです。福沢諭吉が唱えた実学（実生活に生きる学力）を身につけることで、自分の未来を切り拓いてほしいと願っています。

なお、福沢諭吉は、本書において「勉強するかしないかで将来は大きく変わる」と説いています。

白樺と虹と太陽と

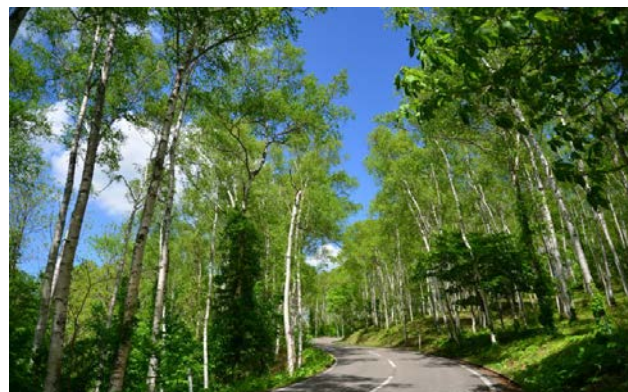
令和3年度 校長通信

7月7日発行

第5号

文責 中野善文

山形町の宝を未来につなぐ ★★七夕に願いを込めて★★



日本一の
白樺美林

久慈市
公式HP
より



様々な報道でご存じのことと思いますが、山形町のシンボルとも言える「日本一の白樺林」(面積：約400ha、約30万本)が、現在危機に瀕しているそうです。

久慈市山形町の平庭高原に広がる、風光明媚(めいび)なシラカバ林が存続の岐路に立っている。100年ほどとされる寿命に近い木が大半を占め、倒木も出ている。日当たりの良い場所では成長せず、既に樹木が生い茂る高原で天然更新の可能性は薄い。このままではブナなど他の樹種中心の林に様変わりするため、市は商品にも活用されている景観をいかに守るか、対応を急ぐ。

現状を知り今後の展開を検討しようと、市は職員を対象に先月勉強会を開催。講師を務めた森林総合研究所東北支所(盛岡市)の梶本卓也支所長らによると、シラカバは地表に何も無い裸地でなければ発芽しにくく、天然更新は望めない。岩手日報(2021.01.28)

梶本支所長の説明では、このシラカンバは、先駆樹種で短命(~100年)、更新には、焼払いなど大きなかく乱(かき乱すこと)が必要で、地表に落ち葉があると発芽できず、皆伐や下草刈りだけでは更新しないと話されました。つまり、自然に再生したり、回復することは無いということです。維持再生するためには、長期にわたる計画(地がき処理、植栽、生育調査)等の人の管理が必要とのことです。

これを受けて、「平庭高原白樺再生に向けた技術指針策定事業」が、多くの関係機関の協力を得て、今年度からいよいよ始まりました。そのプロジェクト事業の大きな目玉となるのが8月8日(日)に開催される「白樺植樹作業」です。150本の白樺と120本のレンゲつつじを植栽する予定とのことで、中学生の協力も依頼されています。まさに、今こそ、皆さんを大切に育ててくれている故郷のために力になれるチャンスです。

10年後20年後の自分の故郷のために、そして、50年後100年後の子どもたちのために山形町の宝である「日本一の白樺美林」を残してあげたいものです。そして、皆さんが成人式や厄払いで同窓会を開いたときに、自分たちが植えた白樺を見ながら故郷を懐かしみ、故郷の良さを改めて実感してくれることを願っています。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

8月30日発行

第6号

文責 中野善文

山中生よ自信と誇りを胸に！

～前期『学校評価アンケート』から見えてきたこと～

7月に実施した「まなびフェストアンケート」の集計結果から、本校および本校生徒の優れた点と課題点のそれぞれが見えてきましたのでお知らせいたします。また、課題については、家庭と連携して改善につなげなければならない点もありますので、ご理解とご協力をお願いします。

1 まなびフェスト重点項目（肯定的評価4と3の合計を基に割合を出したものです）

項 目	1学期		生徒昨年度比
	保護者	生徒	
1 学習に集中して取り組む生徒（80%以上）	81.4%	92.8%	7.9%
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒（1年生 70分 2年生 80分 3年生 90分 80%以上）	62.6%	90.4%	2.0%
3 学校生活が楽しいと思う生徒（80%以上）	79.1%	76.2%	6.4%
4 明るいあいさつができる生徒（80%以上）	86.0%	88.1%	10.2%
5 規則正しい生活をする生徒（80%以上）	81.4%	81.0%	-0.4%
6 部活動に積極的に取り組む生徒（90%以上）	83.7%	95.3%	-1.1%

重点目標 80%を下回った項目

県の目標値を下回った項目

昨年度比 5%上回った項目

昨年度比 5%下回った項目

目標値を超えているものがほとんどでしたが、集計結果をもとに各項目の取組みについて振り返りたいと思います。

【項目1】保護者・生徒とも昨年度に比べて8%程度上昇し、概ね良好な評価結果ととらえます。引き続き、学習に対する意識を高くもちながら集中した取組みを期待します。

【項目2】保護者と生徒の回答に大きな隔たりがあります。原因としてメディア利用や帰宅時間の影響が考えられます。部活動の時間は、市の部活動方針に基づき平日は2時間程度（スポ少の時間も含む）となります。そこで、スポ少のある日は放課後に自学の時間を確保するなど調整を図り、帰宅後の生活にも配慮した指導を今後も継続していきたいと思います。

【項目3】保護者・生徒とも肯定的回答が増えているものの、目標を下回っています。アンケートや教育相談の充実により、子どもたちの心の声を聞きながら、安全で楽しい学校生活を築けるように細やかな配慮を継続したいと思います。一方で、他者とのコミュニケーション能力の向上が求められていることから、自分と考えが異なったり相性が合わないと感じる友だちとの良好な関係作りについても学校行事や特別の教科道徳等を通して指導していきたいと思います。

【項目4】保護者・生徒とも目標値を超えました。ただし、校長の客観的評価は異なります。来校されたお客様や保護者の方へのあいさつ等、まだ十分とは言えません。中学校を卒業して進学や就職した際、あいさつがしっかりと身についていないと個人評価が下がるだけでなく学校や職場の評価にも影響します。日頃から積極的なあいさつを心がけるように、終業式の式辞で伝えました。ご家庭においても、家庭内外のあいさつについてご指導をお願いいたします。

【項目5】保護者・生徒とも目標値を超えており、良好な家庭生活が送られていることを嬉しく思います。最近、情報機器の利用時間の増加に伴って、生活が乱れている中学生が増えているようです。久慈市PTA連合会及び家庭で設定したルールを守りながら、今後も規則正しい生活を送ってほしいと思います。

【項目6】少ない人数ながら生徒は本当によく頑張っています。先輩後輩の礼儀や関係作りも素晴らしく、今後ますますの活躍が期待されます。日頃よりご指導いただいている、各部のコーチの皆様、保護者会の皆様にも感謝申し上げます。

2 重点項目以外について

項 目	1 学期		生徒昨年度比
	保護者	生 徒	
1 自分にはよいところがある	81.4%	57.1%	-8.1%
2 将来の夢（目標）をもっている	62.8%	73.8%	-0.3%
3 学校行事に積極的に参加している	93.0%	97.6%	6.9%
4 自分の考えをしっかりと表現できる	81.4%	85.7%	11.6%
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	74.6%	88.1%	5.5%
6 学校の様子をよく話す	81.4%	83.3%	-0.4%
7 先生に相談しやすい	69.8%	71.4%	2.5%
8 学校は情報発信を適切に行っている	95.3%	90.5%	7.9%
9 学校は保護者と意思疎通を行っている	88.3%	90.4%	0.8%
10 学校はいじめ防止に取り組んでいる	90.5%	92.9%	13.8%

昨年度に比べて全体的に評価が高くなっており、昨年度比で5%以上高くなった項目が半数を占めています。中でも「学校行事」「情報発信」「いじめ防止の取組み」が高い評価を得られていますので、引き続きご家庭と連携しながら取組みを進めていきたいと思ひます。

一方、評価が低かったのが、【項目1】【項目2】【項目7】の3項目でした。

【項目1】岩手県では「79.0%」を目標としています。おそらく自分に対する評価が厳しすぎるのではないかと考えられます。日頃から生徒一人一人の活動の様子を見守っていますが、時と場をしっかりと意識したメリハリのある活動はどの生徒も素晴らしいです。もっと自信をもっているいろいろなことにチャレンジするように終業式の式辞で伝えました。また、先生方にも引き続き、一人ひとりの良さや頑張りを「ほめる」「認める」ことを大切にするよう確認しました。

【項目2】岩手県では、「75.5%」を目標としています。本校では、キャリアパスポートや体験活動等により、計画的に将来の生き方について考えるように学習しています。主な体験活動は、2学期の修学旅行（3年）、宿泊研修・職業体験（2年）、野外学習（1年）において実施予定です。また、将来の夢を自由に語り合えるような学級や家庭等の環境づくりも大事であると考えています。折に触れて、将来について話題にしていいただければと思ひます。

【項目7】昨年度比はプラスですが、依然としてやや低い結果となりました。学校では教育相談の充実を目指していますが、教育相談週間以外は生徒職員とも、ゆとりの時間が少ないことが要因の一つとして考えられます。ついましては、日頃から生徒の様子を温かく見守り、丁寧な対応をするように職員間で確認しました。一方で、生徒は大人や他者に自分から話しかけるのが苦手(?)なのではないかとも考えました。日々の授業の中で、対話やグループ学習を大事にしながらコミュニケーション能力を高めるように努めていきます。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

9月10日発行

第7号

文責 中野善文

「新人戦延期を前向きに」 コロナ禍を逞しく生きる

久慈保健所管内で新型コロナウイルス感染症が拡大した影響で、予定されていた地区新人大会が10月2日・3日に延期となりました。かねてから全校朝会等で、「コロナによる急な変更に対して、柔軟かつ適切に対応し、ベストの取組みを一緒に進めていきましょう」という話をしましたが、ぜひ、生徒の皆さんには、今回の延期を練習期間が伸びたと前向きに捉え、技術・体力の向上および課題克服に積極的に取り組んでほしいと思います。

今後もさまざまな変更が考えられますが、本校では各関係機関と連携を密にし、変化を敏感に感じ取りながら先を予測し、急な変更にも柔軟に対応できるように準備を進めていきますので、保護者の皆様におかれましては、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

＜新人戦に向けて「お薦めの本」を紹介します＞

校報「やまどり」N011で、学校支援地域コーディネーター・岩脇さんの図書館整備の様子をお伝えしましたが、季節ごとの装飾に加えて、その時期にあわせた本の紹介をしています。

現在、新人大会に向けていくつかの本がピックアップされていますので紹介します。

① きみを変える50の名言

② スラムダンク 勝利学

③ 道ひらく、海わたる

～大谷翔平の素顔～

④ できるスポーツテクニク

～バレーボール～

⑤ ハートにプライド！卓球部

⑥ 身になる練習法

～バドミントン年間強化ドリル～



新人戦に向けて、技術・体力の向上は言うまでもなく、精神力も養い、心を整えましょう！

①には、イチロー、大阪なおみをはじめ、各競技のスーパースターの名言が多数記されています。②はスラムダンクを好きな生徒にお薦めです。あの名場面がよみがえります。③～⑥は、本校各部に関する本です。ぜひ、興味のある本を開いてみてください。

白樺を救え！ 命運を3年生に託します

白樺植樹活動（9月25日予定）に全校をあげて参加の予定でしたが、地区新人大会の延期に伴い、当日は部活動優先日とし、1・2年生には部活動に専念してもらうこととしました。当日の植樹活動および白樺の命運を3年生に託します。ぜひ、保護者の皆様も含めて多数の参加をお願いします。なお、1・2年生の皆さんには、来年こそ白樺林復活のために奮って参加してほしいと思います。参加を希望した生徒の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

10月15日発行

第8号

文責 中野善文

郷土を愛し、郷土の発展に尽くす ～日本一の白樺美林の再生に向けた山中生の活躍～

9月25日(土)に、延期となっていた「白樺植樹」が実施されました。新人戦の延期により、1・2年生は部活動を優先することとし、白樺の未来は3年生に託されたわけですが、当日は多くの生徒が自主的に参加し、山形町の宝「日本一の白樺美林」の再生に力を注ぎました。そのときの様子を紹介します。

集合時間の朝9時、前日の心配された雨は晴れ渡り、平庭峠駐車場には町内外から多くの方が集まりました。開会セレモニーの前には、遠藤市長が直々に山中生にあいさつを下さり、中学生の参加を喜んでくださいました。

説明の後、植樹会場へ全員徒歩で移動し、200本の白樺を植えました。ポイントは、日当たりの良い場所を選び他の木との間隔を空けて穴を掘って植え込み、周囲1メートルを地掻きします。

生徒たちは、男女のグループに分かれ作業を始めました。はじめは、勝手がわからずに手間取っていましたが、本数を重ねるにつれ、慣れた手つきで友達との会話を楽しみながら楽しく植樹作業を続けました。

この後、集合場所の駐車場に一旦戻りスクールバスで白樺荘のある駐車場に移動しました。

下車後はまた徒歩で、心地の良い木漏れ日の中、爽やかな風に吹かれながら富士見平まで移動し、同じ要領で172本のつつじの植樹に取り掛かりました。

富士見平は、その名の通り見晴らしが非常によく、視界の良い日には、東には太平洋、西には岩手山が見渡せる場所です。毎年6月に「つつじまつり」が開催されている場所で、来年はきれいな花を咲かせているにちがいありません。

作業の後、遠藤市長のあいさつに続き、PR(宣伝)タイムが設けられました。突然、「しゅうへい」コールが沸き起こり、山形中を代表して秀平君が学校紹介をすることになりました。突然のふりにも関わらず、とても堂々と素晴らしい発表でした。大したものです。(以下、要約)

「山形中学校はみんな仲良く、合唱や演劇等の活動を頑張っている素晴らしい学校です。先生方もみんな優しく、頭の良い方ばかりです。10月に文化祭があるので、まだ参観についてはわかりませんが、皆さんにわたしたちの合唱と演劇を見てほしいです。」

会場は大きな拍手に包まれ、山形中の素晴らしさが十分に伝わったようでした。



白樺荘の駐車場に戻って待っていたのは、「植樹記念フォレストボード」の制作です。これは、車いすの方が移動できるように、板を組み合わせせて散策道を整備するのに使用しますが、板を組む前に思い思いのメッセージを書き込みます。最初に、わたしに気を使ってくれたのか、校長先生の名言をと言って「白樺のように凛と美しく、闘牛のように勇ましく」のキャッチフレーズが書かれました。別のボードには、学校教育目標「自主・創造・躍進・敬愛」、気づくと「ぶっちー♡、まこと、たかこ、LOVE」と親愛なる3年生の先生方の名前と参加生徒の名前が書き込まれました。心がほっこりとするひとときでした。



写真に収められた一人ひとりの笑顔から、仲間と過ごした楽しい時間と郷土の宝「日本一の白樺美林」の再生に貢献した充実感が伝わってきます。

いよいよ解散の時がやってきました。帰り際に、楽しみにしていたお振舞をいただきました。山形町が誇る「平庭バーガー」と飲み物をセットでいただき、それぞれの帰路に着きました。



はじめて食べた「平庭バーガー」はまさに絶品。爽快感と充実感のスパイスも相まってか、あまりのおいしさに舌鼓を打ちながら、改めて山形町の良さを実感するとともに、この活動に関わったことへの嬉しい気持ちと誇らしい気持ちが沸き上がってきました。

後日、全校朝会で生徒に次のように話をしました。「20年後・30年後に平庭高原にみんなで集まって、自分たちが植樹した白樺を見ながら昔を懐かしみお祝いができたら最高だと思います。」白樺の成長とともに、生徒の皆さんも立派に成長することを願っています。

今回、残念ながら参加できなかった1・2年生の皆さんには、ぜひ来年参加してほしいと思います。そして、白樺植樹に限らず、山形中学校および山中生は、地域とともに成長・発展していく学校でありたいと考えています。

保護者の皆さまも、ぜひ来年はご家族で参加されてみてはいかがでしょうか。きっと、かけがえない思い出になることと思います。

<お知らせ>明日のガタゴン祭りで、3年生がソーラン節でステージを盛り上げます。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

11月12日発行

第9号

文責 中野善文

学んだことを生きる力に～諸調査から見えてきたこと～

先日、氷点下2度まで冷え込んだ早朝、非常に美しい景色を見ました。現在、国語で学習している古典作品の言葉を借りると、「霜いと白うおける朝、遣水よりけぶりの立つこそをかしけれ」（徒然草・第十九段）に似た景色で、昔も今も日本人は四季折々の美しさに心を動かし、その思いを誰かと共有したくなるのだと感じました。

さて、国語に限らず、各教科で身につけた知識や技能を活用して物事を考え判断できると、より生活が豊かになり、生きる力につながります。そして、その力（学力）を測る一つ的手段として学力調査があります。今年度実施した各学力調査の結果と現在の取組等についてお知らせします。

【3年生】全国学力・学習状況調査（5月実施）

国語、数学とも全国・県の正答率を大きく上回る結果でした。国語では、文章や言葉の意味理解に優れ漢字が定着しています。数学では、計算及び表やグラフの読み取りに優れています。全国・県と同様に、正答率が低かった問題は以下の通りで、授業の中で重点的に指導しています。

国語：書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ

相手や場に応じて敬語を適切に使う

数学：事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる

【2年生】岩手県中学校学習定着度状況調査（10月実施）

国語、数学とも惜しくも県の正答率に届きませんでした。国語では、話の要点を聞く力に優れています。数学では、グラフの読み取り及び図形の移動についての理解に優れています。県比について昨年度との比較ができませんが、数学の理解及び定着に力を入れて取り組んでいます。正答率の低かった問題は、以下の通りです。

国語：文章の展開を確かめながら要旨を捉える

文章の展開に即して内容を捉える

登場人物の言動の意味を捉える

数学：関数の意味を理解している

多数回の試行の結果から得られる相対度数の意味を理解している

与えられた情報から必要な情報を選択し、割合が高くなる理由を相対度数を用いて説明

することができる

【1年生】新入生学習状況調査（4月実施）

国語、数学とも県の平均正答率を上回りました。国語では、県と比較しても書く力が優れています。数学では、表やグラフの読み取りに優れています。県と同様に正答率が低かった問題は、以下の通りです。

国語：表現の仕方を捉えて読む

資料から読み取ったことを根拠にして書く

文章の構成を捉えて読む

数学：二つの数量の関係を直線上に表すことができる

三角形の面積を底辺と高さに着目して等積変形した求め方の工夫を理解できる

単位量あたりの大きさについて、判断することができる

各学年各教科とも、調査結果を分析し課題に対応した指導を進めています。3年生は高校受験で、1・2年生は3学期に実施予定のC R T学力標準検査で、それぞれ成果を出せるように引き続き丁寧な指導に努めていきます。

山中生の内面及び人間性は？質問紙から見えてきたこと

教科テストの他にも質問紙調査がありました。本校生徒の全体的な傾向についてお知らせします。県や全国と比べて肯定的回答が高かった質問は、以下の通りです。

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。

人が困っているときには進んで助けていますか。

いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

これらをまとめると、「いじめを許さず、困っている人を進んで助け、何事も最後までやり抜こうとする素晴らしい山中生」と評価することができます。

一方で、県や全国と比べて肯定的回答が低かった質問は、以下の通りです。

自分には良いところがあると思いますか。

自分で考えていることや思っていることをきちんと言葉で表すことができますか。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。

地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。

学校評価においても**自己肯定感の低さ**を課題としていましたが、同様の結果が出ました。奥ゆかしい人柄なのかもしれませんが、何事にも全力で取り組み、人を思いやる気持ちをもった本校生徒には、もっと自分に自信をもってほしいですし、先生方もその良さを今後たくさん認めていきたいと考えています。また、以前の校長通信でもお伝えしましたが、地域の活動に参加する生徒のほうが自己肯定感が高い傾向にあります。白樺植樹活動のような地域貢献活動や伝統芸能の継承等に積極的に参加するよう呼びかけたいと思いますし、参加しやすい環境を整えていきたいと思っています。

この他の特徴として、スマホ等のインターネットの活用時間が県や全国と比べて長いです。また、学年が上がるにつれて利用時間が長くなっています。

近況については、本日の学年懇談会・進路説明会等で説明があったと思います。今後もご家庭のご協力をいただきながら、日々の指導を大切にしていきたいと考えています。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

12月10日発行

第10号

文責 中野善文

PRIDE OF 「岩手県」「久慈市」「山形町」

早いもので師走を迎え、今年も残すところ2週間あまりとなりました。これから寒さも本格的になりますので健康に留意し、新しい年をさわやかな気持ちで迎えたいものです。

さて、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、「できることは着実に進める」という方針のもと、11月には、それぞれの学年において貴重な体験的学習を実施しました。

1年生：野外活動学習「久慈琥珀博物館」

2年生：職場体験学習「山形総合支所・蒲野建設・谷地林業・平庭山荘」

3年生：修学旅行 「花巻市・平泉町・遠野市・陸前高田市・大槌町・宮古市」

それぞれの学習を通して感じたことは、「岩手県」「久慈市」そしてわが町「山形町」は、世界及び全国に誇れる文化ならびに人(先人)、物(産物)を多数有しており、大変素晴らしい郷土であるということです。先月の全校朝会では、それぞれの体験的学習に触れ、「ぜひこの地に生まれ暮らしていることに誇りをもって、全国・世界に通用する人間を目指しましょう」と話しました。ここに、それぞれの活動の様子を一部紹介します。

【修学旅行】令和3年11月16・17・18日 「岩手再発見☆いわて復興教育☆絆づくり」

まず、日本屈指の最先端の科学技術を「岩手工業技術センター・岩手ILCオープンラボ」で見学しました。東北では数少ない検査器具や3Dプリンター、ILC構想に触れました。ツガワ花巻工場では、日本中で使われているプリクラや証明写真機、UFOキャッチャー等がこの工場で製造されているのを直に見て、まるで夢の国に来ているような感覚でした。

次に、日本の伝統的な文化及び歴史を「毛越寺(座禅体験)、翁知屋(秀衡塗体験)、遠野伝承園(語り部体験)、金婚亭(わんこそば体験)」で五感をフルに使って堪能しました。修学旅行でなければなかなか体験することのできない貴重な経験でした。

東日本大震災から10年。被災地で直接見聞きしたことは、岩手の復興教育が掲げる「いきる」「かかわる」「そなえる」ことの重要性を強く心に刻みました。

「旧気仙中学校、旧大槌町役場跡、旧田老観光ホテル」の情景は、津波の恐ろしさを物語り、ガイドの方のお話は「大切な家族を失った深い悲しみ」と「命を守るためにどうすべきか」を深く考えさせられるものでした。大槌で参加したワークショップでは、非常に判断に悩む難問を投げかけられましたが、自分ごととして考え・判断し・積極的に意見を交流しました。その真剣な態度と個々の考えの深さに、ガイドの方も感激していました。生きる力を育むためには、思考・判断・表現(行動)する力が重要であることを改めて実感した研修でした。





【職場体験学習】令和3年11月19日 「地域の支えにより実現した心温まる体験学習」

久慈市で予定していた「社会体験 Week」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりました。

しかし、この貴重な学びの機会を何とか実現したいという思いで町内の各事業所をお願いしたところ、たくさんの事業所から快諾をいただき実現することができました。

「山形総合支所」各課、地域の観光施設等取材し、「やまがた通信」の原稿を作成しました。

「蒲野建設」本社での説明後、岩泉の河川工事現場を見学し、測定機器等の操作を体験しました。

「谷地林業」炭を作る工程を学び、実際に木の切断（薪割り）、炭の袋詰めを体験しました。

「平庭山荘」社長講話の後、コテージや客室の消毒作業、スキー場の準備を体験しました。



職場体験の様子は、「ぐれっと！やまがた通信」で紹介される予定です。乞うご期待！

【野外学習活動】令和3年11月15日「郷土の文化財の継承☆社会的視野を広げた体験学習」

久慈市といえば、「日本一の白樺美林」とならんで有名なのが「久慈琥珀」です。今回の研修では、はじめに博物館を見学して琥珀の歴史と浪漫について学び、「琥珀まが玉づくり」と「琥珀採掘」を体験しました。

近年、久慈地方産琥珀の中から昆虫や羽毛などの化石が相次いで発見され、国内外の古生物学や昆虫学をはじめ、化石DNAの研究者たちから注目されているそうです。

採掘体験では、歴史的発見を求めて一生懸命に作業に没頭しました。驚いたことに琥珀の他にも「サメの歯」を発掘するなど感動的な体験となりました。



以上のように、私たちが暮らすこの郷土には、それぞれに素晴らしい歴史・文化・技術等がたくさんあって、最近では、野球・スノーボード・スキージャンプ等のスポーツ面でも注目されています。まさに、自慢のふるさとです。

現在、久慈市では「まめぶ」の無形民俗文化財登録を目指しており、本校でも伝承活動に協力しています。「白樺」「闘牛」（短角牛）に次ぐ、地元の宝になることを期待しています。今後も郷土に対する誇りを大事にし、地域とともに成長する学校を目指していきます。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

1月18日発行

第11号

文責 中野善文

最上級の山中を目指して！

～後期『学校評価アンケート』から見てきたこと～

明けましておめでとうございます。いよいよ山形中 2022 がスタートしました。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、日程の変更や規模の縮小を余儀なくされたものもありましたが、「できることは着実に進める」という方針の下、主要な学校行事等は無事に実施することができました。これもひとえに保護者の皆様ならびに地域の皆様のご協力のおかげであることに改めて感謝申し上げます。今年 2022 年も、「学校の新しい生活様式」により生徒の安全を確保しながら諸活動に取り組んで参ります。

さて、1学期に引き続き、「まなびフェスト」の重点について、生徒ならびに保護者の皆様に回答をいただき結果をまとめましたのでお知らせします。下の表は、肯定的評価（4段階評価の4と3）の数値を基にして作成したものです。評価結果を1学期と比較しながら、原因と今後の取り組みについてそれぞれ示しましたので、ご理解ならびにご協力についてよろしくお願いします。

1 まなびフェスト重点項目（肯定的評価4と3の合計を基に割合を出したものです）

項目	1学期		2学期		年間	
	保護者	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒
1 学習に集中して取り組む生徒（80%以上）	81.4%	92.8%	69.0%	90.7%	75.2%	91.8%
2 家庭学習に積極的に取り組む生徒（80%以上）1年生 70分 2年生 80分 3年生 90分	62.6%	90.4%	69.0%	83.3%	65.9%	86.9%
3 学校生活が楽しいと思う生徒（80%以上）	79.1%	76.2%	78.6%	74.4%	78.8%	75.3%
4 明るいあいさつができる生徒（80%以上）	86.0%	88.1%	90.5%	90.7%	88.3%	89.4%
5 規則正しい生活をする生徒（80%以上）	81.4%	81.0%	66.7%	83.7%	74.0%	82.3%
6 部活動に積極的に取り組む生徒（90%以上）	83.7%	95.3%	85.2%	89.3%	84.5%	92.3%

保護者・生徒とも80%以上

保護者・生徒とも80%未満

・学習面について、項目1「集中して取り組む」ことについて、2学期は低下しています。新年度の頑張ろうという気持ちが薄れたのかも知れません。授業中の生徒の学ぶ姿は、どの生徒も集中していて素晴らしいです。問題となるのが、項目2の家庭学習の時間です。保護者評価が7%上がったのに対して、生徒評価が7%低下しました。細かく分析すると、保護者の高まりは2学年に大きく表れていて、生徒の低下は3学年に表れています。受験に向かって集中して頑張っている人と、波に乗れないでいる生徒がいるようです。教科指導も含めて、学校全体で支えていきたいと思えます。3学期には、3年生に対して校長面談を実施し、一人ひとりに直接アドバイスをしたいと考えています。

また、項目2については、家庭でのメディア利用も影響していることが、生徒会のアンケートからも伺えます。今年度は、ノーメディアの取り組みが十分ではなかったことも反省として挙げられ

ますので、来年度は、生徒会を中心とした取組みと小学校と連携した取組みを計画したいと考えています。ぜひ、ご家庭においても各家庭のルールを決めて適度な利用に努めていただきますようお願いいたします。

- ・項目3「**学校生活が楽しい**」については、保護者・生徒のいずれも目標を達成できませんでした。「楽しい」学校生活の基盤は、「授業がわかる」「良好な人間関係」だと思います。今後も「わかる授業」を展開するとともに、日々の生活の中で「絆づくり」「居場所づくり」を大事にし、良好な人間関係を築いていきたいと考えています。また、引き続き生徒会が「NAR」運動で掲げている「一人も一人にしない山中」を生徒も職員も目指して参ります。
- ・項目4「**明るいあいさつ**」は、これまで山中生の課題として挙げられていましたが、生徒・保護者とも80%以上の評価が得られました。校舎内に響く「明るいあいさつ」は、とても気持ちが良いですし、来校者の評価も高いです。引き続き高い意識を持ちながら継続していくよう生徒を励ましていきます。将来に向けて、「一人でも」、「学校外でも」、自然とあいさつができるように習慣化することが大切ですので、ご家庭においてもよろしく願います。
- ・項目5「**規則正しい生活**」については、2学期の保護者評価が大きく下がりました。家庭学習の評価と同じ下がり方をしていることから、項目2で触れたメディアコントロールが関わっているものと考えられます。学習面・健康面のいずれにおいても規則正しい生活が望まれます。特に、受験期を迎えた3年生の皆さんは、朝型への切り替えが重要となってきます。
- ・項目6「**部活動への積極的参加**」について、2学期は保護者評価は高まりましたが生徒評価は下がりました。新人大会後の次なる目標に向けた個々の取組みに意識の差があったようです。来年度に向けて、チームとしてベクトルを揃えて取り組むよう指導していきます。部延長期間後は、コーチの方ならびに保護者会の皆様のお力添えにより、スポーツ少年団による指導をしていただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

<重点項目以外の評価について>

項 目	1 学期		2 学期		年 間	
	保護者	生 徒	保護者	生 徒	保護者	生 徒
1 自分にはよいところがある	81.4%	57.1%	81.0%	57.1%	81.2%	57.1%
2 将来の夢（目標）をもっている	62.8%	73.8%	59.5%	76.7%	61.2%	75.3%
3 学校行事に積極的に参加している	93.0%	97.6%	92.7%	95.3%	92.9%	96.5%
4 自分の考えをしっかりと表現できる	81.4%	85.7%	69.0%	79.1%	75.2%	82.4%
5 相手の立場や気持ちを理解した言動ができる	74.6%	88.1%	83.3%	95.3%	78.9%	91.7%
6 学校の様子をよく話す	81.4%	83.3%	88.1%	83.7%	84.7%	83.5%
7 先生に相談しやすい	69.8%	71.4%	69.0%	61.9%	69.4%	66.7%
8 情報発信を適切に行っている	95.3%	90.5%	83.3%	86.0%	89.3%	88.3%
9 保護者と意思疎通を行っている	88.3%	90.4%	76.2%	90.7%	82.3%	90.6%
10 いじめ防止に取り組んでいる	90.5%	92.9%	83.3%	90.7%	86.9%	91.8%

- ・項目1「**自分にはよいところがある**」については、1学期の反省に基づいて、生徒の良いところを積極的に「ほめる」「認める」ことを大事に指導してきましたが、1学期同様の評価でした。岩手県人がもつ謙虚さの表れかもしれませんが、保護者評価に生徒の評価が近づくことが目標です。学校と家庭の双方で「ほめて伸ばす」ことを大事にしていきたいと考えています。

- ・項目2「将来の夢」については、学年が上がるにつれて生徒評価が下がっています。大人に近づくにつれて、現実的なものの見方・考え方になっているのかもしれませんが。今年度も新型コロナの影響で企業訪問及び職業体験等が十分に実施できませんでした。本人の成長と適性に合わせて夢を見つけられるように、学校ではキャリア教育の充実を図っていきたくと考えています。
- ・項目3「学校行事」については、コロナ禍ではありましたが、特に体育祭、文化祭の取り組みは素晴らしく、それぞれの行事で目指す力をつけ、互いの絆を深められたと思います。
- ・項目4「自分の考えを表現」については、1・2年生が苦手に行っているようです。これからの時代は自分の考えをもつだけでなく相手に伝えることが重要視されます。日々の授業や学校行事等でその力を育てていきたくと思います。ぜひ、ご家庭においても「あなたの考え」を聞いてあげてください。その際、「なるほど」「すごいね」と共感してあげることが大事なポイントです。
- ・項目5「相手の立場」については、2学期評価が保護者・生徒とも目標を達成しました。授業や集会等において、発表している生徒一人ひとりの個性を理解しながら聞く姿がとても立派です。特別の教科道徳での学びや生徒会による「NAR」運動の成果の表れだと嬉しく思います。
- ・項目6「学校の様子」については、高い数値です。親子関係が良好であることの表れであると嬉しく思います。今後も、学校の様子に加えて「将来の夢」等いろいろな話題について子どもと語り合い、共により豊かな人生を築かれることを願っています。
- ・項目7「先生に相談しやすい」については、教育相談の充実と日頃からのコミュニケーション等を大切にしてきましたが、残念ながら生徒評価が低下しました。生徒が登校すると朝・昼・放課後と活動が隙間なく入っていて、生徒も教師も忙しく活動しているためにゆとりがないためか、それとも関りが十分ではないのかご意見を頂戴できればありがたいです。上述してきたように、今後も生徒の良さをほめたり認めたり、丁寧な関りを大切にしていきます。
- ・項目8「情報発信」については、目標数値を超えていますが、2学期の評価が下がりました。校長通信および学校報は、1月に最低1回のペースで発行してまいります。今後も適切な情報を保護者の皆様方に発信し共有していきたくと思います。なお、ホームページにも毎月アップされておりますことを、この紙面を借りてお知らせいたします。
- ・項目9「保護者と意思疎通」については、年間では目標を達成していますが、2学期の3年保護者評価が下がりました。コロナ禍においても意を尽くして教育活動を推進してきましたが、協議等において不十分なところがありましたならばお詫び申し上げます。これから受験に向かうにあたり心配な点があればご相談ください。
- ・項目10「いじめ防止」については、生徒の9割が肯定的評価をしています。残り1割の生徒の「あまりそう思わない」という評価を大事にしたいと考えます。「いじめは許されない行為」であることを、大人も子どもも同じ認識で取り組むことが重要です。社会全体からいじめがなくなるように、国全体で取り組むことが大事だと考えております。

<ご意見として頂戴したこと>

「部活動をもっとやってほしい」「部活動に対する個々の生徒意識を高めてほしい」というご意見を頂戴しました。大変ありがとうございます。部活動は、「異年齢集団が、同じ目標に向かい協力する」中で、学ぶことの多い価値ある活動ですので、全員参加をお願いしています。

生徒の声を大事にしなが、目標を設定し、そこに向かって全員が気持ちを揃えて取り組むように指導していきたくと思います。生徒会・部長会の声もぜひ聞いてみたいと思います。

保護者の皆様からのご意見等については、随時お伺いします。2022年が良い年になるように、最上級の学校を目指して努力して参りますのでどうかよろしく願いいたします。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

2月10日発行

第12号

文責 中野善文

岩手の人 沈深牛の如し

寒さが厳しい日が続いていますが、この長い冬の寒さが岩手の県民性を育てているのかもしれない。

前号（1.18発行）の中で、『自分に良いところがある』（自己肯定感）が低いのは、岩手県民の謙虚さにあるのかもしれない」と記しました。その岩手県民の県民性について、本号では取り上げたいと思います。

岩手の県民性を考えたときに、最も有名なのが宮沢賢治の「雨ニモマケズ」だと思います。この詩には、賢治が「農民芸術概論」序論で唱えた「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という考えが反映されていて、困っている誰かのために尽くす献身的な姿勢とどんな苦境にも負けない我慢強さが感じられます。この精神はおそらく岩手の県民性と言って良いのではないかと考えます。では、他県の人から見た岩手の県民性はどうか。このことを考えるときに、真っ先に浮かんでくるのが高村光太郎です。

この高村光太郎は、十和田湖の「乙女の像」を制作した彫刻家ですが、妻への愛をつづった「智恵子抄」という詩集も刊行しており、詩人としても名高い方です。この高村光太郎が、戦時中に宮沢賢治の弟を頼って花巻に疎開していた時期があり、「岩手の人」という詩を詠んでいます。その中に、次のような一節があります。

岩手の人沈深牛の如し。
地を往きて走らず、
企てて草卒ならず、
つひにその成すべきを成す。

岩手人は沈着で思慮深く
牛のように落ち着いていて
物事に動じない。
地を往くときも慌てず走らず、
じっくりと歩みを進め（取り組み）、
最後にはその目的を成し遂げる。

いかがでしょうか？この気質は、今の私たち岩手県人にも受け継がれているように思いませんか。決して偉ぶることなく、謙虚な姿勢で物事を着実に推し進め、最後は結果で示す。

この謙虚さが、もしかしたら「自分を過小評価しているのではないか」と考えてもみるのですがいかがでしょうか。ぜひ、家庭でも話題にしてほしいと思います。

岩手が誇る大谷選手の活躍は必然だった！

先月ある嬉しいニュースが届きました。それは、花巻東高校野球部「佐々木洋監督」とその教え子である「菊池雄星選手」「大谷翔平選手」の3人が日本スポーツ学会大賞に選出されたというものです。まさに、この2人の選手こそ、「岩手の人」の象徴であり、岩手の風土や人間性に加え、佐々木監督の素晴らしい教えがあって、このような活躍をしているのだと感じました。

わたしは、かつてこの佐々木洋先生の講演を聞き、どのようにして菊池選手や大谷選手が誕生したのか感銘を受けたのを覚えています。裏面では、その指導について触れたいと思います。

まず、佐々木監督の指導は、「野球選手である前に人として立派であれ」という指導です。学校の中だけでなく、保護者・地域の方々への礼儀正しいあいさつ、また、地域のごみ拾いや素手によるトイレ掃除も有名です。そして、勝つために必要な「運」は、その地道な取り組みの成果として現れるものだと選手たちは考え実行しています。

二つ目の特徴的な指導として、目標設定・プランニングシートが有名です。紙に9マスの表をつくって、その中心に目標を書く。次に、その目標を達成するために大事なことを、周りの8つのマスに書く。さらに、今度はその8つのことを中心とした9マスシートをつくり、達成のために必要なことを書く。それを部屋に貼って、日々実践するというものです。

大谷選手が高校1年時に書いたものを見ると、中心の目標として「ドラフト1位8球団」と書いてあります。実現するために「コントロール」「キレ」「スピード(160km/h)」「変化球」「体づくり」「メンタル」「人間性」「運」が必要と書いてあります。興味深かったのは、「メンタル」のシートには、「はっきりとした目標を持つ」「仲間を思いやる心」、「人間性」のシートには、「感謝」「愛される人間」「信頼される人間」「礼儀」、「運」のシートには、「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋掃除」「本を読む」等、人間性を高めるものが多く書かれてあります。

アメリカでは、大谷選手の活躍と人気は、そこに書かれてある一つ一つの地道な取り組みが作ったものであり、必然的なものだったと評価されています。

大谷選手が高校1年生のときに、どんなシートを作ったのか、下の表にまとめましたので参考にして、皆さんも真似してみたいはいかがでしょうか。

体のケア	サプリメントを飲む	FSQ 90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールをたたく	リストの強化
柔軟性	体づくり	RSQ 130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事 夜7杯 朝3杯	下肢の強化	体を開かない	メンタルコントロールをする	ボールを前でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標、目的を持つ	一喜一憂しない	頭は冷静に 心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	雰囲気 に流されない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩周りの強化
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる	人間性	運	変化球	可動域	ライナーキャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダークレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度	遅く落差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォームで投げる	ストライクからボールに投げる	奥行きをイメージ

本稿を起草中、小林陵侖選手が今大会日本人初の金メダルを獲得しました。岩手県人としては30年ぶり、個人では初だそうです。この歴史的快挙をともに祝福したいと思います。

白樺と虹と太陽と

令和3年度 校長通信

3月 3日発行

第 13 号

文責 中野 善文



北京オリンピック閉幕！ たくさんの感動をありがとう！

コロナ禍の中、バブル方式（外部と接触しない方式）によって開催された北京オリンピックにおいて、日本は過去最高のメダル数を獲得し、連日ニュースの話題を独占しました。

この大会には、岩手県出身の選手が多く出場し複数のメダルを獲得するなど、県民に多くの希望と勇気、そして感動を与えてくれました。その活躍を振り返りたいと思います。

小林 陵侑 選手（八幡平市出身）

スキージャンプ男子 個人ノーマルヒル 金メダル
個人ラージヒル 銀メダル
団体 5位/ 混合団体 4位



選手の紹介とコメント

美しいジャンプは世界の教科書。
「僕が魔物だったかも」「高梨選手をたくさんハグしてあげた」

小林 潤志郎 選手（八幡平市出身）

スキージャンプ男子 個人ノーマルヒル 27位
団体 5位

弟陵侑と2大会連続出場。弟のメダル確定のジャンプに駆け寄り抱きしめる姿に感動の声が集まる。

永井 秀昭 選手（八幡平市出身）

ノルディック複合 個人ノーマルヒル 31位
団体 銅メダル

3度目の出場。今大会を最後の出場38歳。「こんなご褒美が待っているとは思わなかった」

土屋 正恵 選手（八幡平市出身）

ノルディック クロスカントリースキー女子
個人30kmフリー 36位
団体20kmリレー 11位



初めてのオリンピック出場。世界の強豪と競う。「充実したレースだった。初の五輪を次の経験に」

谷地 宙 選手（紫波町出身）

ノルディック複合 個人ノーマルヒル 30位

いわてスーパーキッズ出身。初めてのオリンピック出場。「団体を外れた悔しさ、次は絶対に！」

岩淵 麗楽 選手（一関市出身）

スノーボード女子 個人スロープスタイル 5位
個人ビッグエア 4位



2大会連続出場。「最後にチャレンジできてよかった。」他国の選手が駆け寄る姿に、バツハ会長が感動。

メダル獲得の有無にかかわらず、どの選手もすべての力を最後まで振り絞って競技をしていたのがとても印象的でした。また、県民の多くの皆さんが、選手の活躍を「岩手の誇り」と称え喜んでいたので印象に残っています。

岩手の誇りが増えたことを喜びつつも、次のような考えも浮かんできました。

オリンピックや著名人に限らず、人は皆「自分にとって大切なもののために努力したり、闘っている。」それらは優劣をつけられるものではなく、すべてが尊い価値を有している。

つまりは、誰もが自分に誇れる何かをもっているはず。仮に、人に自慢できることではないとしても、自分の誇りを大切に生きていくことが大事なのではないでしょうか。



文学の香り高き岩手 作家 柏葉幸子さん アメリカで偉業達成！

文化面でも活躍！
岩手の文学を紹介
します！

岩手を代表する児童文学作家・柏葉幸子さん（盛岡市在住）の英訳版著書が、アメリカの最もすぐれた英訳児童書に贈られる「バachelダール賞」に選ばれました。柏葉さんといえば、昨年映画化された「岬のマヨイガ」で有名ですが、今回の受賞でその名は世界までとどろきました。

この朗報を受けて、早速山形図書館に行き本を借りて読みました。「なるほど」「さすがだ」と感じながら、一気に読み終えるとともに、ぜひ多くの人に読んでほしいと思いました。そこで、この作品の魅力を紹介したいと思います。

物語の設定の妙技

登場人物は、大きく二つのカテゴリーに分けられます。

主人公カズ（小5）を中心とし、①同級生である子どもたち、②死んだ祖父との関わりをもつ老人たちで構成され、徐々に関りが深まっていきます。

また、この作品の魅力として、物語の中に物語がある二重構造となっていて、昔読んだ童話の世界へと引き込まれていきます。非常に得した気分。

題名が暗示する〇〇の話…？

帰命寺（きみょうじ）…から何を連想しますか？

奇妙な感じ、命が帰る寺、読み手の想像力をかき立てます。

表紙には、ランドセルを背負った少女が描かれていることから、この少女が重要人物であることがわかります。はたして、この少女は誰なのか、なぜ夏なのか想像しながら読んでほしいと思います。

岩手県民ならではの楽しみ方

この作品の舞台は、益田市という町ですが、盛岡市の八幡町界隈がモデルになっているようです。そう読んでみると、盛岡八幡宮周辺の横丁や南大通りの景色が思い浮かんできて楽しい気分になります。

物語の中で、「昔の地図に帰命寺横丁とあった」と書かれていますが、作者の柏葉さんは、実際にこのことからヒントを得て、物語を作られたそうです。

そうすると・・・。

実在した場所は？その歴史は？

気になってネット検索をしてみると、「陸奥盛府三十三観音」の一つに「帰命寺」がのっていました。住所は、盛岡市中ノ橋通2丁目1地内で廃寺と書かれています。元禄三年(1692年)に西応という僧侶が如来堂を建立したことに始まるが、明治維新後に廃寺となる。(出典不明)

実在した寺となると、物語の言い伝えは本当なのか・・・？興味のある方は、ぜひ調べてみてください。

この作品は、心温まるストーリーで家族の絆や友情について描かれています。帰命寺がかつて実在していたことと、その周辺の町並みを頭に思い浮かべながら読み進めていくと、いつかその世界に自分が入り込んでいるような気になります。

読後に感じられる爽やかさは、どこか「14フォーティーン」(石田衣良著)に似ていました。子どもから大人まで、楽しめる作品です。どうぞ手に取ってご覧ください。